



## Topics

### 外来、入院を支えるリハビリ体制強化中！



#### 地域とつながる、未来を支える

2000年代リハビリは「療法士がいかに多くの患者を診るか」という“量”が求められていました。しかし、高齢化や疾患・障害の細分化など、社会背景の変化に合わせて医療制度も見直され、障害を克服し「その人らしい生活・人生」を送れるための“質の高いリハビリ”が求められるように変化しました。当院でも需要と質の両立を目指すためそれが研鑽し、有能な療法士が育ちさらに若手療法士への指導と教育により、日々共に成長し続けています。



#### 急性期から在宅までを支える体制

当院の強みは、急性期でのリハビリ経験が豊富な理学療法士による早期介入と、在宅生活を想定した手厚い作業療法・言語療法にあります。急性期病棟では、患者様の早期治療開始を重視し「その日からの回復」に向けて医師・看護師・リハビリスタッフが連携。早期リハビリ介入を実施しています。地域包括ケア病棟では、急性期を脱した患者様の在宅復帰支援・多職種カンファレンス・家族指導を含む「生活を見据えた支援」を提供。地域の開業医や施設とも連携を深め、円滑な退院調整が可能な体制を構築しています。



#### リハビリテーション科のさらなる強化

リハビリテーション科は現在、理学療法士9名、言語聴覚士2名、作業療法士が8月より新たに2名加わり、13名が在籍。身体機能の改善はもちろん、ADL（日常生活動作）・嚥下・認知機能まで多角的にアプローチ可能です。またスタッフの増員により外来リハビリ目的の患者様の受け入れも強化しております。



## 【療養型病床とはどんな病床】

慢性疾患を持つ患者さんが長期にわたる療養生活を送るための病床で  
当院は34床の病床で運用しています。



#### 対象となる方

急性期疾患の治療や、回復期リハビリテーションを終えた方で、在宅への退院が困難な状態、あるいは高齢者施設に入所中に、何らかの医療処置が必要な状態となり入所継続が困難になった方が多く入院されています。

療養型病床は、厚生労働省の定めた病態・処置の状態ランク（医療区分）に該当する方を対象としています。



療養生活  
の様子

褥瘡(床ずれ)  
予防目的で  
時間ごとに  
体位交換を行っています

